岐阜市立女子短期大学研究紀要第 59 輯（平成 22 年 3 月）

笠松町町制 120 周年記念事業「織りと染め」展示報告

The report about the exhibition “Weaving and Dyeing "
of the Kasamatsu Town Organization Anniversary Project.

野田　隆弘
Takahiro　NODA

Abstract

This year, Kasamatsu town in Gifu pref. has become 120 years old as an organization. As one of the commemorative events, the exhibition of “weaving and dyeing ”was held. At the commemorative event, the exhibition, 34 dyeing works of mine were exhibited. The content of the work is as follows. I dyed the fabrics, which were weaved with a Jacquard textile machine and had 17 typical landscapes showing the history of Kasamatsu town for these 120 years, in 11 different plant dyeing stuff. I had ５ policys to dye these works. This exhibition was carried out from October 6 to November 29.　During two months, many people visited to watch them and they praised . The lecture, whose the title is 「Kasamatsu wo Sasaeta minoshima stripes」 was given. As a result, people in Kasamatsu town seemed to understand “Weaving and Dyeing”and ”Minosima stripes” deeply.
Keywords : dyeing、weaving、exhibition

１．はじめに

岐阜県羽島郡笠松町は本年度町制 120 年[1)] を迎えた。この記念の年に記念事業として「織りと染め」の企画展示が行われることとなった[2)]。120 年の歴史を示す笠松の風情ある１７の風景をジャカード織物として制作し、これらの織物をそれぞれ 11 種類の草木染[3)] で染色した。これらの制作した 34 点の染色作品が平成 21 年 10 月 6 日～11 月 29 日まで笠松町歴史民俗資料館において展示された。

この展示の記念事業として演題「笠松をささえた美濃縞」の講演も同年 11 月 7 日にかさまつ公園「あずまや」で行った。これにより、笠松町民が「織りと染め」「美濃縞」が印象深く理解されたと推測した。

この展示にあたり、以下の気持ちをもって作品作りを行った。

①ものつくりは楽しく、おもしろく、そしてすばらしい！！

自分で考え・創造した「もの」を、自分の手指で実現していくことは人間にしかできない、とても大切なそして貴重な営みであり、最も楽しいことである。この気持ちを大切にしたいと日頃から思っている。

②染育の育成

ものつくりにあたり、その一分野として「布を染める」ことを振り返ってみると、染めることはいつも新しい発見・感動・驚きがいくつもある。「染める」工程で実体験したその感動・驚きを生活の中に活用していくことにより個人のレベルアップがはかれるものと思う。

③テキスタイル産業の先端技術

テキスタイル産業においても、現代の最先端技術が積極的に活用されている。今回は最先端のコンピュータ技術により高度な画像処理を行い、その結果（信号）を織機に送信し、その信号を受けて織機を作動させることにより、他に類を見ないユニークな、精緻な織物を製作した。

この織物に我が国古代から受け継がれている技法で染色いたした。

④笠松町の歴史・文化的側面の再発見

この展示会で製品化した「由緒ある風景」をはじめ、「笠松町」には歴史に裏打ちされた風情あるいは光景があちらこちらにある。笠松町をもう一度見直してみたいと思う。

⑤産官学事業・地域貢献

産（テキスタイル事業者）・官（笠松町歴史民俗資料館）・学（岐阜市立女子短期大学）の 3 業態が、いわゆるコラボレーションでそれぞれの長所、持ち味を生かして、制作を進めた。

２．作品の製造方法

作品は最初に織物を製造し、それを染色するという流れで作成した。

2.1　織物の製造

笠松町歴史民俗資料館から借用した 17 種類の笠松の風景写真をそれぞれスキャナーで読み取り、数値変換した。なお、目視判断で作品には適合しない写真は新たに当方などが撮影した。それぞれ2種類、合計34点のジャカード織機で織物を製造した。主な諸元は以下のようである。

表１　制作した作品の一覧表

		絹		綿	
番号	場　　面	加工	色　相	加工	色　相
1	オグリキャップ	紫いも→酢酸アルミ	淡紫	たまねぎ→木酢酸鉄	濃焦げ茶
2	渡船場石畳	モリンダ→みょうばん→木酢酸鉄	焦げ茶	ログウッド→木酢酸鉄	紫
3	へそ塚	くちなしブルー→酢酸アルミニウム	青緑	紫いも→木酢酸鉄	赤灰
4	芭蕉踊	くちなし＋藍の生葉染め	緑	紅花の黄色＋藍の生葉染め	緑青
5	トンボ天国と河跡湖	ログウッド→酢酸アルミニウム	灰茶	ラック→みょうばん→木酢酸鉄	濃赤
6	岐工記念館	すおう→酢酸アルミニウム	赤	すおう→みょうばん	濃赤
7	名鉄電車と桜	紅花	赤	紅花の黄色→木酢酸鉄	濃焦げ茶
8	笠松春まつり	ラック	赤紫	くちなし→みょうばん→藍の生葉染め	緑
9	陣屋（県庁跡）	クルーゼラック	赤紫	すおう	淡赤
10	大名行列お奴	藍の生葉染め	青緑	モリンダ→みょうばん→藍の生葉染め	緑青
11	四季の里	ラック＋すおう→酢酸アルミニウム	赤	藍の生葉染め	青
12	花火	ログウッド→木酢酸鉄	濃茶	すおう→酢酸アルミニウム	赤
13	円空仏	紫根＋ログウッド	紫	ログウッド＋すおう→酢酸アルミニウム	赤
14	版画　田園風景	みょうばん＋紫根→木酢酸鉄	灰	くちなしブルー＋紫いも→みょうばん	淡茶
15	版画　大名行列	ログウッド→酢酸アルミ	黒	くちなし→みょうばん	黄
16	版画　杉山邸	ログウッド→木酢酸鉄	黒	藍の生葉染め	青緑
17	競走馬	藍の生葉染め	青緑	たまねぎ→酢酸アルミニウム	茶

《作品資料№.１(絹)の生地諸元》
たて糸：ポリエステル
たて糸見掛け密度：50 本／cm
よこ糸：絹
よこ糸見掛け密度：52 本／cm

《作品資料№.２(綿)の生地諸元》
たて糸：ポリエステル
たて糸見掛け密度：56 本／cm
よこ糸：綿
よこ糸見掛け密度：52 本／cm

2.2　染色

染色は草木染[4)] で行った。その色材は①藍　②くちなし　③クルーゼラック　④くちなしブルー　⑤蘇芳(すう)　⑥たまねぎ　⑦紫いも　⑧紫根　⑨紅花　⑩モリンダ　⑪ラック　⑫ログウッド　の 12 種類を用いた。なお、①藍　と　⑦紫いも　は自家植栽であった。　媒染剤は①みょうばん　②酢酸アルミニウム　③木酢酸鉄　の３種類を使用した。その色方法などを表１にまとめる。(表中、「＋」は重ね染め、「→」は媒染剤を示す)

なお、この染色に使用した織物は前述のように（(株) 川甚代表 川瀬正貢氏：各務原市川島町）に全面的に製作技術支援をいただいた。また、染色するにあたり、現在の社会の要請である「地球にやさしい、再生産可能」の視点に立ち、11 種類の色材を使用し、草木染を行った。それらのうち、「ラック」は(株)岐阜セラツク様(岐阜市東鶉)の提供による。

３　制作した主な作品

前述のように 34 点作成したが、これらの内、主な９点を簡単な解説を並記して以下に紹介する。完成した作品の一部を以下に示す。なお、この「解説」は笠松歴史民俗資料館の資料を引用した。

(1)へ　そ　塚

《解　説》奈良津堤の魂生大明神の境内にへそ塚がある。生命の源、愛情の源として日本全国から「へその緒」を預かり、心身の健康を祈ろうとするものでる。昔、笠松陣屋脇に魂生様があった頃、その境内の一隅に「へそ塚」と呼ばれた小さなお堂があった。明治６年頃、陣屋が岐阜市に移転した際、いつの間にか消えてしまっていたのを昭和 60 年に観光開発の一環として再建した。「へそ音頭・へそ踊り」も同時発表している。

図１　　へそ塚

(2)木曽川トンボ天国と河跡湖

《解　説》無動寺地内の木曽川河川敷は、昔は湊があり、船着場があったが、今では古い川筋が残って池になった、全国でも数少ない河跡湖として、地形的にも珍しいところである。トンボが多数生息していることから「トンボ天国」と呼ばれ、イトトンボやモノサシトンボなど 30 種類ものトンボが確認されている。このトンボ池の他に古池、中池、まこも池等があり、一帯は「トンボ天然自然公園」として整備されている。環境庁（現在の環境省）の「ふるさといきものの里」「岐阜県の名水」「ぎふ・ふるさとの水辺」にも選ばれ、町民の憩いの場として、子供たちの研究・観察の場として親しまれている。

図２　木曽川トンボ天国と河跡湖

(3)笠松春まつり

《解　説》笠松三郷（奈良津新田・徳田新田・笠松村）鎮座の八幡神社と産¥¥¥霊神社の例祭は、８月 14、15 日に行われていたが、明治になってから４月の春まつりに改められ、現在に至っている。桜の花が咲き始める頃、笠松春まつりを開催する。奈良津堤では「桜まつり」が行われ、桜並木のライトアップにより夜桜の美しさを引き立ている。

「笠松陣屋市」では江戸時代の市場の賑わいを再現している。最終日の「祭りパレード」の呼びものとして、「大名行列お奴」や「神輿おばば」等が次々に繰り出され、それぞれ八幡神社・産霊神社へ奉納され、その勇姿は多くの人を魅了している。また、産霊神社では「宵まつり」が行われている。

図３　　笠松春まつり

(4)美濃郡代笠松陣屋・笠松県庁跡[笠松町文化財指定]

《解　説》関ヶ原の合戦（1600 年）後、美濃は譜代・外様大名と旗本の所領、それに幕府直轄領に細かく分轄され、美濃と尾張の境にあたる笠松には、交通軍事の要所として、所領者のいない笠松に関ヶ原の合戦で勝利を得た徳川幕府は河川の治水のために、慶安３年（1650 年）木曽川沿いの笠町（現笠松町）に休憩所を設けた。その後、寛文２年（1662 年）には笠松陣屋を設置し、様々な行政が行われた。明治維新により、慶応４年(1868 年）４月には笠松県が誕生し、およそ 200 年続いた笠松陣屋は笠松県庁として名前を変えた。明治４年（1871 年）岐阜県が誕生したことに伴って、明治６年（1873 年）に県庁が岐阜市に移るまでは、笠松は岐阜県の中心地であった。この松陣屋・笠松県庁跡は笠松の大切な史跡として町制 100 年記念として小公園になっている。

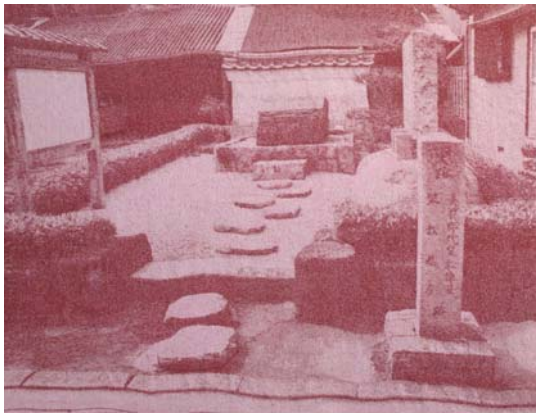

図４　　美濃郡代笠松陣屋・笠松県庁跡

(5)大名行列お奴[岐阜県重要文化財指定(民俗芸能)]

《解　説》笠松まつりの奉芸に「大名行列お奴」がある。掛け声とともに毛槍や鳥毛を投げ渡しながらの行列は、全国にも例のない珍しいものである。祭りの起こりは、江戸時代、美濃国の幕府直轄領を支配する役所「美濃郡代（代官）笠松役所」が置かれ、明治維新まで 25 代の郡代・代官が着任し、地方（じかた）支配にあたり、なかでも文久元年(1861 年)、皇女和宮の降嫁に際して第 24 代岩田鍬三郎郡代より動員を受けた笠松の町衆は郷足軽として長柄持役・奴として毛槍役などに従ったといわれている。明治維新後、司町・港町の町民は岩田郡代の威徳を偲び、郡代の格式に合わせ、諸道具を取り揃え、大名行列を模して八幡・産霊神社へ奉納してきた。近年、「笠松大名行列お奴保存会」が結成されて、優雅にして活気のある行列が保存継承されている。また、行列の「奴の毛槍振り（踊りの身振り足さばき）」の部分が平成７年 11 月岐阜県重要無形民俗文化財に指定された。

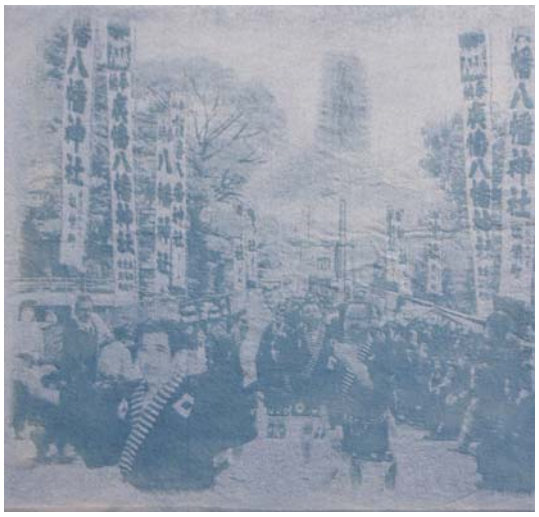

図５　大名行列

(6) 四季の里

《解　説》四季の里は、後藤新兵衛（馬好：ばこう）が木曽川橋(通称：人道橋)の下流、田代字藤掛の木曽川の岸に開園した私園で、四季おりおりの花に飾られたこの四季の里には、文人・雅客が絶えなかった笠松の名所であった。養子鷹太郎の時代に料亭を開き、名を売ったが、戦時中の昭和 19 年（1944 年）５月に岐阜県教育委員会が買収し、教育会館となった。同 31 年（1956 年）笠松町が購入した。その後、個人のものとなり、飲食業が行われたが、昭和 40 年代に壊された。開園者は馬が好きで俳号を馬好と号し、「馬好」として親しまれ、屋根の鬼瓦には「馬」が刻まれていた。庭には、多くの文人たち詠んだ句などの碑がたくさんあったが、現在は笠松中央公民館の南庭に二基と魂生さんに一基残されている。

図６　　四季の里

(7)笠松川まつり　花火

《解　説》毎年８月 15 日、全町あげて盛大に川祭りが行われている。元来、水天宮の例祭は７月 15 日で、川沿いの上堤町・下堤町、柳原町が例祭を行っていた。明治になって堤灯のやま船を出し、万灯流しと打ち上げ花火が行われるようになった。大正５年（1916 年）には、*二枚腹３艘艘つなぎ*の屋形舟のほか、万燈流し 600 個に打ち上げ花火が催しされた。現在では夏まつりとして、花火と万灯流し、ステージイベントなどさまざまな催しが夏の夜空と木曽川全体に広がっている。その光の芸術が盆の行事として訪れた人々の感動を誘っている。

図７　　笠松川まつり　花火

（８）杉山家住宅主屋[杉山邸](版画)[国の登録有形文化財]

《解　説》原画は、森　秀男さんの版画である。

杉山邸は明治 24 年の「濃尾大震災」直後に建造された築 100 年余を数える質実剛健な「町屋風造り」である。笠松を拓いた「八人衆」の一人、杉山市右衛門さんから数えて 15 代目ほどにあたる杉山銓二郎さん（愛称「すぎせん」・味噌、溜まり業）所有の建物であった。2006 年に国の登録有形文化財の指定を受けた。

図８　杉山邸

(9) 大名行列風景

《解　説》原画は、森　秀男さんの版画である。

図９　大名行列

染色された作品の各部、最も濃色の部分および最も色目の薄い部分、さらに作品の導布部分を色彩色差計で最も濃色の部分、薄い部分および作品には表現されていない導布部分の３ヵ所の明るさ（Ｌ値）を測定し、結果を図 10 に示した。なお、最も濃色の部分の織物組織は裏朱子、逆に最も色目の薄い部分は表朱子、導布部分は平織とした。

その結果を図 10 に示す。

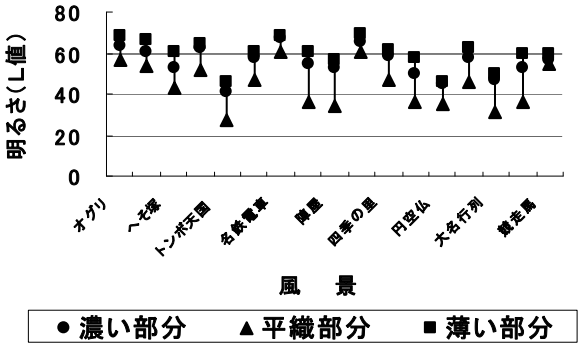

図 10　各作品の明るさ

４．会期中の会場

(1) 会場の概要

会場風景を　枚の写真で説明する。図１１は会場入口を示す表示である。これらは紙で作成されていた。

図 11　会場その１

図 12 は会場の中心をなす位置で歴史のある笠松を最も表現している風景である「杉山邸」、「大名行列」そして「笠松湊の石たたみ」を展示した。なお、中央部の「織りと染め」と左下の「トンボ」はオパール加工布にラックで染色した作品である。右下の「トンボ」はくちなしで染色した作品である。

図 12　会場その２

図 13　会場その３

図 13 は２体の円空仏を織物／染色した作品の展示を示す。中央部には円空仏実物が鎮座している。上段の「織りと染め」はオパール加工布をたまねぎ染色した作品である。

図 14　会場その４

図 14 の左端の作品は「陣屋跡」であり、右２点はいずれも「四季の里」である。左が藍の生葉染め、右がラックと蘇芳の重ね染めである。

図 15 では左上が桜満開の奈良渡堤付近を走る名鉄電車を紅花染めした作品である。右上は藍の生葉染めによる大名行列を示す。下 2 点はたまねぎ染めである。これら 2 作品は他の作品と異なり、黒糸も使用している。

図 15　　会場その５

図 16 では上方の 5 点の作品はたまねぎ染色である。特に黒色の作品は媒染剤に木酢酸鉄を使用したものである。

中央部左は笠松競馬場で疾走している競走馬、右側は「オグリキャップ」である。下のショーケースには草木染の色材見本、左側がこの作品を制作するために使用したもの、右側がそれ以外でよく使われている物を展示した。左側には新聞報道記事、当方のまとめた草木染めの一覧表を示す。

図 16　会場その６

(2) 来場者数

開催中に訪れた方々の人数は 1,000 名ほどである（笠松町民俗資料館調査）。特に 10 月 31 日は名古屋鉄道主催の「名鉄ハイキング」に指定されていたのでとりわけ多数の観覧者（同資料館調査：2,520 名）があったと報告を受けた。

(3) 来場者の感想・意見

多くの方々が入場された。その中からいくつかの貴重な意見をいただいた。①とても織物には見えない。指先でさわってはじめて織物と理解できる。写真そのものである。②ジャカード織物の素晴らしさに感動した。　③作品の出来映えとは少し異なるが、訪問者の若い頃の風景がいくつも作品となっているのでとても懐かしく、思わずタイムスリップした、昔を思い出した、などの意見をいただいた。

(4) 新聞報道

この展示会について中日新聞（2009, 10. 25）と岐阜新聞（2009. 11. 5）に記事として掲載された。

４．まとめ

展示にあたり、いくつも心配することがらがあった。たとえば、いずれの作品も決して耐光堅ろう度は高くないので，期間中に色あせて作品の用をなさなくなる、あるいは意外と関心が低く来場者は少ないなどを危惧していた。結果的にはこれらのことは徒労に帰し、まずは胸をなで下ろしたというところが偽らざる心境である。

最後に、本事業を進めていくにあたり、笠松町歴史民俗資料館の職員の皆様、および関係各位の皆様にいろいろご教示・ご支援・ご助言を賜りました。併せてお礼申し上げます。
紙上を借りて、両企業様に厚くお礼申し上げます。

本報告は「織りと染め　作品集」報告書を参考にしてまとめた。

【参考資料・解説】

１）町制 120 年
明治 21 年 4 月 17 日法律第 1 号の後半として公布され、翌年 4 月以降に町村合併などが全国各地で順次施行された。ちなみに岐阜県では市制 1 (岐阜市)、町制 22、村制 941 が施行された。
２）広報かさまつ、P6、2009 April 4. №983
３）山崎　和樹：「やさしい草木染め」ＮＨＫ趣味悠々、（日本放送出版協会　2003 年）

草木染：1930 年に開催された第 1 回手織紬復興展覧会で

山崎斌氏が化学染料と区別するために植物染料などの
天然染料による染色を「草木染め」と命名した。

（提出期日　平成 21 年 11 月 30 日）